

CONTENTS

ごあいさつ …… 1
 活動報告 …… 2～5
 エネルギー点描 …… 6
 日常生活の省エネ …… 6
 お知らせ …… 7
 役員名簿・編集後記 …… 8

21世紀の エネルギーを 考える会・みえ



【度会町宮川一degree会パーク】

ご
あ
い
さ
つ



会長 小菅 弘正

平素より、会員の皆様には、当会の事業活動にご理解、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、未曾有の大災害となった東日本大震災から一年が過ぎましたが、東京電力福島第一原子力発電所では、冷温停止は維持されているものの収束にはまだまだの感があります。また、昨年9月に発生した台風12号により県内では南部を中心に大きな被害をもたらすなど、昨年はまさに災害の年だったと言えます。

これらの被災地の地域では、一部復興の兆しも見え始めてまいりましたが、依然として厳しい状況にあります。被災された方々の一日も早い復旧・復興を心からお祈り申し上げます。

さて、震災後、エネルギーや環境を取り巻く状況は大きく変化し、また、国民の多くがエネルギーや環境問題に関心を深めていただいているものの、一部世論は「脱原発」等が話題となっていることなどについては、日本の持続的成長や電力エネルギー需給さらには地球環境等を真剣に考えての話なのか、不安を感じるところでもあります。加えて4月には、国内におけるすべての原子力発電所が停止することから、特に今年の夏の電力不足が懸念されるところであり心配しています。

日本は、エネルギーの90%以上を海外からの輸入に頼っており、自給率4%と極めて資源の乏しい国であります。我が国は、火力発電に必要な化石燃料は、主に政治の不安定な中東から輸入されており、安定した供給には不安があります。また、火力発電は発電時に大量のCO₂を排出することから地球温暖化防止の観点からもその施策には一考を要すると思われまます。

政府は、夏までに「エネルギー政策」をまとめるとしていますが、日本の将来を見据え、冷静な判断のもと、環境や経済面等を考慮し、原子力発電の再稼働も含め、適切に判断していただくことを期待しています。

また、代替エネルギーとして太陽光や風力発電等の再生可能エネルギーが大きくクローズアップされている中、東海地方でも、天然ガス資源として注目されている「メタンハイドレート」の海洋産出試験が愛知県沖で開始され、また三重県でも木曾岬干拓地で「メガソーラー」誘致計画等も報道されており、今後の成り行きに期待したいものです。

当会では、今後とも「エネルギーのこと、環境のこと、一緒に考えてみませんか!」をテーマに啓発活動や要望・提言活動を精力的に取り組んでまいりますので、会員の皆様の一層のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

活動報告

私たちは、再生可能エネルギーや原子力、さらには放射線、環境等の問題を正しく理解し、今日の豊かな生活を次の世代も享受できるよう、ライフスタイルや経済活動はどうあるべきなのか真剣に考えることが重要だと考えています。県民の皆様にも身近な問題として考えていただきたいとの思いから、シンポジウムや、地区別講演会を始め各種啓発活動を県内各地で開催しました。概要をご紹介します。

公開シンポジウム・桑名

公開シンポジウムは「エネルギー・環境問題のこと一緒に考えてみませんか！」～正しく知ろうエネルギーのこと、環境のこと～をテーマに桑名で開催しました。

■平成24年2月17日(金)桑名シティホテル

基調講演

松本真由美 氏 (東京大学先端科学技術研究センター特任研究員)

パネルディスカッション

[コーディネーター]

新田 義孝 氏 (四日市大学 環境情報学部 環境情報学科 教授)

[パネリスト]

太田 清久 氏 (桑名市環境審議会 会長)

岡本 正弘 氏 (経済産業省 中部経済産業局 資源エネルギー環境部 エネルギー対策課長)

田中 茂 氏 (NTN株式会社 桑名製作所 管理部長(兼)安全・環境管理課長)

松本真由美 氏 (東京大学先端科学技術研究センター特任研究員)

〈共催〉桑名商工会議所、桑名三川商工会、木曾岬町商工会

[参加者数] 約80名

当シンポジウムでは、まず、松本真由美氏を迎え「私たちの未来を考える地球温暖化とエネルギー」と題して基調講演がありました。松本氏は、「エネルギー政策を受け身型から、参加型に意識を変えることが大事」と語り、1月に訪れたドイツの発電所の事例などを紹介しました。

後半には、新田義孝氏のコーディネーターのもと、太田清久氏、岡本正弘氏、田中茂氏、松本真由美氏を迎え、パネルディスカッションを行いました。この中で松本氏は、太陽光、風力など再生可能エネルギーについて「取り出すのに技術とお金がかかるが、無限にあり枯渇しない。ぜひ力を入れて取り組んで」と呼び掛け、市民ができることとして、家庭での省エネや蓄エネに加え、同エネルギー事業に投資する「市民ファンド」設立を提案しました。「風力ファンド」や「太陽光ファンド」の国内事例を挙げながら、「メガソーラー(大型太陽光発電)に市民ファンドが導入されたことはない。三重県で是非やっていただきたい」と語り、意見交換が行われました。



■ パネルディスカッションで発言するパネリスト



■ 講演する松本氏

太田氏は、桑名市のエネルギー政策について述べ、田中氏は風力発電の軸径や、自社の環境への取り組みを紹介した。

岡本氏は、7月施行の「再生エネルギー特別措置法」について説明。制度開始から3年間に開発した場合は高い値段で電力の買い取りを続けるとし、「速やかな買い取り価格の設定が必要」と述べました。

会場の参加者からは、「木質原料のバイオマスと、桑名の鋳物技術を使って新ビジネスとつくっては？」と新エネルギーによる地域活性化への活発な提案もありました。

講演会（地区別）

■ 当会が主催する地区別講演会は県内の2地区で開催しました。

鈴 鹿

開 催 日：平成 23 年 10 月 28 日（金）

会 場：鈴鹿市文化会館 さつきプラザ

講 師：木場 弘子 氏（キャスター・千葉大学教育学部特命教授）

テ ー マ：「子どもたちの未来のために考えたいエネルギーや環境のこと」

参加者数：約 80 名

講演で木場氏は、世界人口の増加や、経済発展に伴うエネルギー需要の増加を指摘し、世界のエネルギー資源の埋蔵量が限られていることから、各国が自力でのエネルギー供給を考える時期が来ており、低炭素社会をつくるために家庭でもできる取り組みなどを紹介しました。



■ 挨拶する山本理事
（鈴鹿商工会議所会頭）

小 俣

開 催 日：平成 24 年 2 月 23 日（木）

会 場：伊勢市立小俣図書館 会議室

講 師：富永 秀一 氏（環境ジャーナリスト）

テ ー マ：「エネルギー危機を乗り越える！省エネ、節電対策」

共 催：小俣町商工会

参加者数：約 40 名

富永氏は、講演で地球温暖化の進行が、今後 10 年～ 20 年、私たちがどのように生活するかによって大きく変わっていくと逼迫する状況を説明しました。そして、今後世界のエネルギーの主役になると考えられている太陽熱発電や、原油に代わる「バイオオイル」を生み出す「藻」の日本での研究、また「海流発電」の実現に大手メーカーが動き出していることなど、再生可能エネルギーのさまざまな取り組みを紹介しました。



■ 講演する富永氏

講演会（共催）

■ 当会より講師を派遣しました。

三重県商工会 女性部連合会40周年記念式典

開 催 日：平成 23 年 11 月 11 日（金）

会 場：松阪フレックスホテル

講 師：東嶋 和子 氏（科学ジャーナリスト）

テ ー マ：「放射線ってなに？」身近な生活の中で

参加者数：約 140 名



■ 講演する東嶋氏

■ 第59回全国地域婦人団体研究大会

開催日：平成23年11月18日（金）
会場：伊勢市安土桃山文化村
講師：神津 カンナ 氏（作家）
テーマ：しなやかに現在を生きる
参加者数：約700名



■ 講演する神津氏

■ 四日市消費者協会 消費者講座

開催日：平成23年11月22日（火）
会場：四日市市総合会館
講師：東嶋 和子 氏（科学ジャーナリスト）
テーマ：「みんなで考えよう 安全な消費者生活を」放射線ってなに
参加者数：約60名



■ 講演する東嶋氏

■ 四日市商工会議所 優良者勤労表彰

開催日：平成23年11月28日（月）
会場：四日市商工会議所
講師：金田一 秀穂 氏（杏林大学外国語学部教授）
テーマ：世界一受けたい面白い日本語授業
参加者数：約200名



■ 挨拶する服部事務局長

■ 三重県新生活運動推進協議会 省資源・省エネルギー大会

開催日：平成24年2月14日（火）
会場：ポルタ久居
講師：和田 由貴 氏（消費生活アドバイザー）
テーマ：暮らしを見直す省エネ対策
参加者数：約60名



■ 講演する和田氏

■ 見学会

■ 中部電力（株）浜岡原子力発電所を見学しました。

見学者：菰野町商工会 工業・商業合同部会

開催日：平成23年11月29日（火）

参加者数：30名



■ 菰野町商工会工業・商業合同部会の皆様

見学者：津・伊賀ブロック商工会 職員協議会

開催日：平成23年12月10日（土）

参加者数：30名



■ 津・伊賀ブロック商工会職員協議会の皆様

第3回役員視察会

■今回は震災以降注目を集めている再生可能エネルギーをテーマに視察しました。

開催日：平成23年11月8日（火）・9日（水）

会場：九州電力（株）小丸川発電所（純揚水式水力発電）・八丁原発電所（地熱発電）

参加者：30名

初日は揚水式水力発電を行う宮崎県児湯郡の小丸川発電所を視察。通常の水力発電とは違い、昼間のピーク時間帯は、上部調整池から下部調整池に水を流下させて発電し、使用した水量を電力需要の少ない夜間の電気で水車を逆回転させて上部調整池に揚水し、昼間の発電に再び使う仕組みなどを学びました。二日目は地熱発電を行う大分県玖珠郡の八丁原発電所を訪れ、温泉地特有の地熱を利用した発電設備や従来の地熱発電では不可能だった低温の蒸気・熱水での発電が可能となる国内初のバイナリー発電施設を視察しました。

2日間の視察を通じて、再生可能エネルギーのメリット・デメリットを深く知ることができ、今後のエネルギーのあり方を考えるうえで非常に有意義な視察となりました。



■熱心に視察する役員

第5回役員懇話会

■エネルギー問題に関する講演を聴講しました。

開催日：平成23年11月29日（火）

会場：ホテルグリーンパーク津

参加者：39名

当会が今年度調査・研究委託した三重大学地域戦略センターのセンター長である西村訓弘氏を招き「地域社会の将来像に関する調査研究」をテーマに懇話会を行いました。

西村氏は国内外のエネルギー動向について話した後、現在、同センターが核となる産学官連携による地域活性化の事例として、県南地域での柚子を活用したプロジェクトを紹介しました。また、県内に豊富な木材を活用したバイオマス発電を利用した地域活性化の可能性についても言及しました。



■講演する西村氏

PA活動

■当会に対し講演依頼があり、服部勝事務局長が出前PAを実施しました。

第59回全国地域婦人団体研究大会(分科会)

開催日：平成23年11月17日（木）

会場：宝生苑

テーマ：暮らしとエネルギー

参加者数：約120名

三重県民社協会 四日市セミナー

開催日：平成24年1月28日（土）

会場：四日市シティホテル

テーマ：エネルギーのこと、環境問題のこと、一緒に考えてみませんか！
～正しく知ろうエネルギーのこと、環境のこと～

参加者数：約80名

三重県経営者協会 女性懇話会

開催日：平成24年3月2日（金）

会場：レストランソプラノ

テーマ：エネルギーのこと、環境のこと一緒に考えてみませんか！

参加者数：10名



■講演する服部事務局長

エネルギー一点描

日本のエネルギーを取り巻く環境は2つの面で大きく変化を迎えています。一つはエネルギーセキュリティの確保であり、もう一つは地球温暖化防止への対応です。そうした課題への対応のため、再生可能エネルギーの開発・導入が求められています。太陽光、風力、地熱、バイオマスなどの再生可能エネルギーを取り上げ、再生可能エネルギーの可能性について考えます。第2回目は風力発電について考えましょう。

再生可能エネルギーを考える②～風力発電～



■ 青山高原ウィンドファーム

風のエネルギーを電気エネルギーに変える風力発電が話題になり注目されています。欧米諸国に比べると導入が遅れていますが、2000年以降導入件数は急激に増え、2010年度末に総設備容量244万kWを超え、総設置基数1,814基を達成しています。また、これまでの累計導入量について、設備容量を設置基数で割って見ると、1基当たりの平均設備容量は、2004年度末から1,000kW/基を超えており風車の大型化が進んでいます。

風力発電の主な特徴は4つあります。①比較的発電コストが低い。再生可能エネルギーの中では発電コストが比較的低いいため、近年では従来の電気事業者以外も商業目的で導入を進めています。工期の短さもメリットとなっています。②変換効率が良い。風車の高さやブレード(羽根)によって異なるものの、風力エネルギーは高効率で電気エネルギーに変換できます。③地域シンボルとして「風車は再生可能エネルギーの象徴」と言うように、地域のシンボルとなり「町おこし」などでも活用されています。④夜間も稼働。太陽光発電と異なり、風さえあれば夜間でも発電できます。

一方、周辺環境との調和や台風などの気象条件に対応した風車の開発が必要で、電力系統に影響を与えないための技術開発などが今後の課題とされています。

日常生活の省エネ



LED電球の特徴

①寿命が長い

LED電球は白熱電球に比べて約40倍寿命が長く経済的です。

※条件によって異なります。

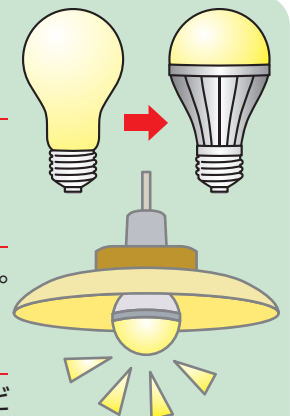
②電気代がお得です

LED電球は省エネの優等生。電気代は一般的な白熱電球に比べて約1/5です。

※条件によって異なります

③すぐに点灯します

LED電球はスイッチONですぐに点灯します。瞬時に明るさの欲しい暗室などに適しています。



お知らせ

平成24年度総会日程

日 時：平成24年6月5日（火）
総 会：13:00～14:00
記念講演会：14:15～15:45
講師 冷泉 為人 氏
（冷泉家25代当主、冷泉家時雨亭文庫理事長、同志社女子大学客員教授）
会 場：ホテルグリーンパーク津 6階 伊勢の間
（津市羽所町700）TEL：059-213-2111

平成24年度地区別講演会・公開シンポジウムの開催

当会では平成24年度も、三重県内において地区別講演会および公開シンポジウムの開催を予定しています。

日程・内容等の詳細は、当会ホームページに随時掲載いたしますのでご確認願います。または事務局までお問い合わせ願います。

お近くでの開催の際には、ぜひご来場願います。

ホームページはこちら → <http://www.e-mie21.com>



当会の活動をより多くの県民の皆さま方に知っていただくためレディオキューブFM三重で当会のコマーシャルを放送しております。当会の活動理念である「低炭素社会の実現」の重要性を説明したり、当会行事の案内を行ったりしています。ぜひお聴きになってください。

放送時間 ▶

月曜日
8:25～ 8:27

木曜日
17:48～17:50

土・日曜日
毎月5回放送

会員の募集

当会では、会員の募集を行っています。

21世紀におけるエネルギー・環境問題を共に考え、行動する人の「輪」を広げています。

当会にご関心をお持ちの未入会の企業、団体、一般の方に一声お掛けいただきますよう、お願いいたします。

役員名簿・編集後記

役員等一覧 (平成24年2月1日現在)

■会長

小菅 弘 正 (四日市商工会議所顧問)

■副会長

竹林 武 一 (三重県商工会議所連合会会長)

藤田 正 美 (三重県商工会連合会会長)

佐久間 裕 之 (三重県中小企業団体中央会会長)

岡本 直 之 (三重県経営者協会会長)

藤原 義 治 (三重友愛連絡会議長)

吉田 文 雄 (エネルギー問題三重県研究会代表世話人)

■理事

齋藤 彰 一 (三重県商工会議所連合会副会長)

上島 憲 (同上)

中井 均 (同上)

山本 忠 之 (同上)

西村 憲 一 (同上)

川口 佳 秀 (同上)

伊藤 恵 智 (三重県商工会連合会副会長)

篠木 幸 一 (同上)

川合 文 郎 (同上)

西尾 雄 三 (同上)

大内 丈 夫 (同上)

竹尾 博 光 (三重県中小企業団体中央会副会長)

三林 憲 忠 (同上)

向井 弘 光 (同上)

黄瀬 光 稔 (同上)

菊川 靖 之 (三重県経営者協会副会長)

澤田 隆 (同上)

佐藤 浩 司 (同上)

小林 長 久 (同上)

高崎 征 輝 (同上)

稲葉 邦 成 (同上)

浅野 啓 介 (電機連合三重地方協議会副議長)

荒川 透 (自動車総連三重地方協議会議長)

■理事

木村 敬 明 (UIゼンセン同盟三重県支部運営評議会副議長)

長谷川 直 樹 (JEC連合三重地方連絡会副議長)

伊藤 圭 一 (日産労連三重地方協議会議長)

宮崎 三代橋 (交通労連中部地方総支部三重県支部支部長)

井坂 紀 之 (基幹労連三重県本部事務局長)

林 竜 二 (電力総連三重県電力総連会長)

石井 盟 暁 (日本青年会議所東海地区三重ブロック協議会会長)

大川 妙 子 (三重県地域婦人会連絡協議会会長)

伊藤 幸 子 (三重県新生活運動推進協議会会長)

加藤 正 彦 (三重県医師会会長)

山下 晃 (社団法人三重県建設業協会会長)

瀬河 英 雄 (社団法人三重県建築士会会長)

鯉江 盈 (三重県商店街振興組合連合会理事長)

渡邊 一 雄 (三重県電器商業組合理事長)

楠 修 次 (三重県電気工業事業工業組合理事長)

伊藤 藤 達 雄 (都市環境ゼミナール会長)

■監事

森岡 崑 (三重県商工会議所連合会監事)

堀 博 敏 (三重県一般労働組合同盟書記長)

■理事・事務総長

奈須 庄 平 (四日市商工会議所専務理事)

■事務局長

服部 勝 (21世紀のエネルギーを考える会・みえ)

■運営幹事

井ノ口 輔 胖 (三重県商工会議所連合会専務理事)

佐々木 史 郎 (三重県商工会連合会専務理事)

伊藤 良 夫 (三重県中小企業団体中央会事務局長)

横田 正 典 (三重県経営者協会専務理事)

長谷川 善 樹 (電機連合三重地方協議会事務局長)

広 垣 和 彦 (電力総連三重県電力総連事務局長)

編集後記



事務局長 服部 勝

今号は、平成23年度に実施した各事業の活動報告を中心に編集いたしました。公開シンポジウム(桑名)、地区別講演会(鈴鹿・小俣)には、当会会員の方々ならびに各地区商工会議所・商工会等の会員の方々など、多くの皆様にご参加いただき、ありがとうございました。

各地区ごとに講師をお招きし、参加いただいた皆様一人ひとり、環境やエネルギー問題について、深く考えることができたのではないのでしょうか。

また、当会の活動に関する会員の皆様のご意見等を随時承っております。

今後の活動の参考にさせていただきますので、お気軽に事務局までお寄せ願います。

シンボルマーク

“共生”



「みえ」のイニシャル“M”と自然のイメージをモチーフに、自然環境と暮らし、エネルギーの共生を表現しています。色は海のブルーと樹木のグリーン、図形は地球であり、「三重」の海と山、美しい海岸線でもあります。ダイナミックな“M”で、未来に向けて発展していくエネルギーの躍動感を表しました。

お問い合わせ先(事務局)

〒514-0004
津市栄町3丁目248番地
きりんセカンドビル302号
TEL&FAX(059)229-3790
HP▶<http://www.e-mie21.com/>